

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第29報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査(平成3年度)

千羽 晋示*・安部 直哉**

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 29.
The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan

Shinji Chiba* and Naoya Abe**

序

本報は、「第2次・鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査」の第2年目(平成3年度)に行ったアンケート調査の結果をまとめたものである。

アンケート調査に回答をいただいた多くの方々ならびに、後に再度の問い合わせに返信をくださった方々にお礼申し上げる。

調査方法

調査対象期間 1991年秋季のツル類の渡来期から翌1992年春季の渡去期まで(すなわち、1991—1992年
期、平成3年度)。

調査対象地域 九州、四国、中国、近畿、中部地方ならびに東北地方の一部。ただし、ナベヅル、マナ
ヅルの定期的な渡来地である鹿児島県出水地方と山口県熊毛町八代地方は除いた。

アンケート調査の内容 調査用紙の様式と内容は、前年、前々年と同じである(千羽・安部1991、1992)。
前年度のアンケート調査から追加した「鹿児島県出水地方ならびに各回答者の在住地におけるツル類の
保護に関する意見」に対する回答はほとんどなく、報文としてまとめるだけの回答は得られなかったの
で、前年報と同様に本報でも扱わなかった。

アンケート調査用紙の発送先 前述の各地に在住する日本鳥類保護連盟会員、長崎県生物学会々員、そ
のほか鳥類研究者、観察者に、返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。ただし、調査依頼者は
前々年度と前年度の回答者とした。

さらに、一部の回答者ならびに未回答者の方々に対して再度の問い合わせ、未報告の資料を集めた。

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

** 奈良県生駒郡斑鳩町神南3-9-32-102, Jinnan 3-9-32-102, Ikaruga-cho, Ikoma-gun, Nara-ken

表 1. 県別回答者数

秋 田	6	三 重	15	徳 島	5
山 形	1	滋 賀	6	香 川	7
福 島	3	京 都	13	愛 媛	2
新 潟	21	大 阪	25	高 知	2
富 山	7	兵 庫	31	福 岡	25
石 川	7	奈 良	9	佐 賀	4
福 井	4	和 歌 山	4	長 崎	30
山 梨	5	鳥 取	3	熊 本	7
長 野	27	島 根	4	大 分	7
岐 阜	16	岡 山	3	宮 崎	5
静 岡	20	広 島	15	鹿 児 島	4
愛 知	47	山 口	2	沖 縄	2

調 査 結 果

調査用紙の回収 各県別の回答者数を表 1 にまとめて示した。調査用紙の発送数は447名、回答者数は394名、回収率は88%であった。

調査記録のまとめ方 記録のまとめ方と記述方法は、これまでの6年期の報文と同じ様式で統一した。一部の記録に編著者の「注」を記したが、これも既報と同じである。

1991年度秋期から1992年春期までの記録

新潟県

ナベヅル

(1) 1991年11月8日から11日まで。成鳥1羽。中頸城郡大潟町ならびに頸城村の水田地帯。

石川県

マナヅル

(1) 1992年2月18日から3月20日頃まで。9羽。2月18日夕方、小松市佐美町の水田跡に飛来した。
以後、3月20日頃まで佐美町および日末町の水田跡。

三重県

ナベヅル

(1) 1991年12月10日。成鳥1羽。南牟婁郡御浜町に飛来し、同日、和歌山県方向に飛去。

和歌山県

ナベヅル

- (1) 1991年12月12日、10時頃。成鳥 1 羽。新宮市佐野から三輪崎の一带に14日まで生息。12月14日、14時頃、北へ飛去。

注：三重県と和歌山県におけるナベヅル成鳥 1 羽の上記の記録は同一個体であろう。

山口県

マナヅル

- (1) 1991年11月 3 日、10時。成鳥 1 羽。山口市大歳の水田跡に飛来後、南方に飛去。

高知県

ナベヅル

- (1) 1991年11月 8 日。5 羽(成鳥 4 羽と幼鳥 1 羽)。宿毛市平田町。

種不明

- (1) 1991年11月 3 日、17時 5 分。3 羽。中村市実崎上空を西北西に飛行。夕刻のため種は正確に判定できなかったが、ナベヅルと思われる。

注：このほかにも、中村市と宿毛市にナベヅルが数回渡来したが、1 例だけ数日間滞留している(以上の注記の内容は沢田佳長氏によるが、詳しくは不明)。

福岡県

ナベヅル

- (1) 1992年 2 月23日。2 羽。西区今津の干潟。1 羽はM9 の標識リングが付いた個体。

マナヅル

- (1) 1992年 1 月15日。1 羽。糸島郡前原町。
(2) 1992年 2 月12日。約60羽。糸島郡志摩町。4 時および 7 時半頃に鳴声を聞き、9 時半頃、海の方から陸地に向って飛来し通過。
(3) 1992年 2 月23日。約190羽。西区今津の干潟。前夜、多数の鳴声を聞く。030ほか計 3 羽の標識鳥が入っている。
(4) 1992年 2 月24日、9 時。約30羽。東区海の中道の上空。
(5) 1992年 2 月24日。36羽。西区今津の干潟。1 羽、発信機付きの標識鳥M26が入っていた。

種不明

- (1) 1992年 3 月16日、12時頃。13羽。宗像郡福町上空を南西から北西に。

佐賀県

マナヅル

- (1) 1991年12月15日から1992年 1 月30日まで。成鳥 2 羽。伊万里市長浜干拓の水田跡。
(2) 1992年 2 月13日。5 羽。唐津市。13日15時頃、JR東唐津駅付近の上空を飛行中。18時前に同駅近くの松浦川の河川敷に降りる。

注：1992年 2 月15日付、「佐賀新聞」に掲載されている写真では、5 羽とも成鳥のようである。

長崎県

長崎県の記録は、1. 九州本島地域と 2. 壱岐・対馬地域に分けた。対馬と壱岐の記録は、対馬の山村辰美氏と壱岐の大久保岩人氏の多くの記録を基にまとめた。

1. 九州本島地域

ナベヅル

- (1) 1991年11月24日 7羽。諫早市東部の水田跡。
- (2) 1992年 1月 3日。3羽(1家族と思われる成鳥 2羽と幼鳥 1羽)。諫早市東部ならびに南高来郡森山町の水田跡。
- (3) 1992年 2月24日、18時。1羽。北松浦郡田平町里免の上空。

マナヅル

- (1) 1991年11月24日。1羽。諫早市東部の水田跡。
- (2) 1992年 2月11日、14時半。83羽と39羽の2群。佐世保市小佐々町の上空を北へ。
- (3) 同年同月同日、14時頃。88羽。佐世保市八幡町、市役所の上空。
- (4) 同年同月同日、13時40分から14時頃まで。約230羽(大半がマナヅルで、ナベヅルは10羽ほど)。佐世保市船越町、石岳展望台の上空を北へ。
- (5) 1992年 3月22日。2群41羽。佐世保市の上空を北へ。

クロヅル

- (1) 1991年12月15日頃から1992年 2月18日まで。成鳥 1羽。北松浦郡佐々町の水田跡で越冬。

種不明

- (1) 1992年 2月27日、12時37分。約30羽。長崎市早坂町の上空を北へ。

2. 宍岐・対馬地域

この地域の記録は、上空を通過した種不明の記録も含めて、季節順に整理して記した。以下、種名が記されていない記録は、種が判定されていない観察記録である。

- (1) 1991年10月27日、16時45分。6羽。上県郡佐護の上空を南下。
- (2) 1991年11月 3日、16時頃。5羽。上県郡佐護に降りる。
- (3) 1991年11月 4日、9時30分。マナヅル、1家族の成鳥 2羽と幼鳥 1羽。同上所の水田跡。前日の5羽のうちの3羽と思われる。
- (4) 同年同月同日、10時45分。50-60羽。上県郡田ノ浜の西海岸を南下。
- (5) 同月同日、上記(3)の観察から約1時間後。下県郡美津島町白岳の上空を南下。
- (6) 同月同日、下県郡厳原町、内山峠ならびに周辺の上空。
13時39分から14時0分まで約150羽と50羽。
14時0分から15時0分まで約300、300、300、119羽、以上合計約1,220羽が南下。
- (7) 同月同日、14時30分頃。400羽。厳原町豆酸崎の上空を南下。
- (8) 同月同日、15時頃。500羽。下県郡美津島町今里の上空を南南西に。
- (9) 同月同日、15時10分。15羽。上県郡上対馬町鰐浦の上空を南下。
- (10) 1991年11月 8日、11時。10羽。下県郡尾崎の上空を南南西に。
- (11) 同月同日、14時30分。50羽。同上所の上空を南南西に。
- (12) 1991年11月 9日、14時0分頃。約30羽。下県郡厳原町、権現岳の近くを通過。
- (13) 1992年 1月18日、13時頃。50-60羽。上県郡佐護の上空を南方に渡る。

注：これはきわめておそい南方への渡りの例である。著者(安部)は、翌1月19日にこのツルが出水に到着するのを観察できた。出水地方に渡来するツルの季節的な状況、特に、12月から1月に

かけての後期の渡来状況については、これまでの出水地方における総数調査の結果を基に、別に報告する予定である。

以下、(14)からは北帰するツルの記録である。

(14) 1992年2月5日、16時頃。5羽。上県郡佐護の水田跡に降りようとしていた。

(15) 1992年2月6日、20時。同上所、ツルの鳴声。

(16) 1992年2月7日、0時30分と7時15分。上県郡田ノ浜でもツルの鳴声の記録。早朝に田ノ浜を出発したと思われる。

(17) 1992年2月9日。13羽。壱岐郡石田町深江田原の水田跡に泊る。

(18) 1992年2月10日。壱岐郡石田町深江田原の水田跡。40羽が泊る。翌2月11日、北西方向に出発。

(19) 1992年2月10日。15時15分。マナヅル50羽。上県郡佐護の上空を北上。

(20) 1992年2月12日。15時15分頃。約50羽。壱岐郡郷ノ浦町岳ノ辻山頂付近。南から飛来して方向を変えて、東方の深江田原の方向に。

(21) 1992年2月12日。30羽。壱岐郡石田町深江田原の水田跡に泊る。

(22) 同年2月14日、朝。同上所の水田跡に約50羽が降りている。

注：この記録は、1992年2月15日付「長崎新聞」による。掲載されている写真には、マナヅル20数羽が写っている。

(23) 同年同月同日、時刻不明。同上所の上空を約150羽が旋回。

(24) 同年同月同日、13時15分。50羽。上県郡佐護の上空を北上。

(25) 同年同月同日、20時10分。羽数不明。同上所の上空を鳴きながら旋回。

(26) 1992年2月15日、7時30分。同上所にマナヅル27羽と23羽の2群が降りている。9時7分に出発したが、降雨のため戻って来る。

(27) 翌2月16日、9時30分。北に出発。48羽になっていた。

(28) 1992年2月17日。50羽。下県郡石田町深江田原の水田跡に泊る。

(29) 翌2月18日、9時30分。出発し北西に。

(30) 1992年2月18日、8時0分。180羽。上県郡佐護の水田跡に降りていたが、8時10分、自轉車が近づき、飛び立つ。

(31) 1992年2月19日、8時10分。4羽。同上所に降りていたが、夕方にはいなくなっていた。

(32) 1992年2月20日、夕方。羽数不明。下県郡石田町深江田原の上空に鳴声。

(33) 1992年2月22日。30羽。同上所に泊る。

(34) 翌2月23日、11時に出発する。

(35) 同年同月同日、11時45分頃。20－30羽。上県郡佐護の上空を編隊飛行で北上。

(36) 1992年2月26日、夕方。同上所に飛来。羽数は夕方なので不明。

(37) 翌2月27日、7時0分。同上所の水田跡にマナヅル150羽、ナベヅル12羽がいる。

同日、10時5分、これらのツルは韓国に向け出発。

(38) 1992年2月28日、8時0分。マナヅル19羽。上県郡佐護の水田跡にいる。

(39) 1992年3月1日、15時0分。マナヅル6羽。上県郡上対馬町泉に飛来する。

(40) 1992年3月2日、8時10分。上県郡佐護の水田跡にマナヅル25羽。(37)の19羽と(38)の6羽が一緒になったのであろう。

(41) 1992年3月3日、9時0分頃。(39)のマナヅル25羽は韓国に向け出発。

注：山村氏によれば、対馬北部は2月27日以降、天候が悪く、(37)のマナヅル19羽は同地で5泊したことになり、これまでにない長期滞留とのことである。

(42) 1992年3月7日、夕方。約60羽。下県郡巖原町、内山の上空を北上。

(43) 1992年3月8日、8時10分。ナベヅル6羽。上県郡佐護の水田跡にいる。同日、10時0分頃に北に出発。

(44) 1992年3月7日。40羽。壱岐郡石田町深江田原の水田跡に泊る。

(45) 翌3月8日。北に出発。

(46) 1992年4月1日、11時30分。12羽。上県郡佐護の上空を北へ。

(47) 1992年4月2日、8時。1羽。上県郡佐護井口浜の海岸に降りている。

(48) 1992年4月3日、14時0分。ナベヅル1羽。上県郡佐護の水田跡にいた。

熊本県

ナベヅル

(1) 1992年1月21日、8時30分。ナベヅル200—300羽。天草郡河浦町の上空を北へ向った。

注：この記録には、「北へ向っていたので、飛去には少々早いように感じられる」という回答者(河浦町在住の観察者高比良省喜氏)の付記がある。

マナヅル

(1) 1991年10月2日、8時。7羽。天草郡河浦町、水田跡にいる(高比良氏による)。

(2) 1992年2月17日、10時30分。40—50羽の2群。天草郡河浦町の上空を北西へ。

(3) 1992年2月26日、10時頃。約120羽。同上所の上空を北へ。

(4) 1992年3月8日、11時。20羽。牛深市深海町、六郎次山。出水方向から海上を渡り六郎次山上空を通過して北へ。

鹿児島県

ナベヅル

(1) 1991年11月上旬(月日不明)。1羽。熊毛郡屋久町春牧、下牧野。春田浜の近くの杉林中の路上に7時頃から約30分間おりていて、浜とは反対方向に飛去。

結 び

1. 本年度(1991—1992年期、平成3年度)のアンケート調査によれば、新潟、石川、三重、和歌山、山口、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島の各県にツルが記録されている。
2. 本年度の調査によっても、出水地方で越冬するツル類にとって、特に、壱岐の深江田原と対馬の佐護の農耕地は、渡来、渡去の途中の一時的な中継地として重要であることが示されている。
3. 本年期の出水地方におけるツル類の初渡来は、1991年10月18日のマナヅル18羽であった。しかし、出水に近い熊本県天草郡河浦町には、これより早く10月2日にマナヅル7羽が記録されている。河浦町の水田跡はこれまでも、マナヅル、ナベヅルとにもよく渡来し、少数が越冬したこともある所である。出水地方へ秋期に初めて渡来するツル類は、最近では、たいがい東干拓地か荒崎地区に到着して

いるが、これらの地域の農地の利用状況によっては、河浦町のようにツル類の生息に適していて、出水に近い場所に舞い降りるのであろう。

4. 対馬の佐護上空を1992年1月18日に南下した50-60羽のツルについては、本文の注に記したように、著者らは、このツルと考えられる個体の到着を出水の給餌地区で観察できた。当時、ちょうど大陸から寒気が南下しており、おそらく、朝鮮半島に留まっていた個体が、この寒気の影響で移動したものと推察される。

引用文献

千羽晋示・安部直哉. 1991. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第24報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査(平成元年度). 自然教育園報告, 22: 37-42.

———. 1992. 同上 第26報. 同上(平成2年度). 同上報告, 23: 45-52.

前年期(1990-1991年期)の記録の補遺

福岡県

1991年2月24日、8時頃。ナベツル18羽。遠賀市岡垣町の上空、旋回して高度をとって北へ。

長崎県

1991年3月12日。種不明。下県郡美津島町営グラウンドに数羽が降りていたが、その内の1羽は飛び立えず、カラスとトビの被害にあっていたという。

前報の誤植訂正(鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査、第26報、自然教育園報告第23号、1992)。

(1)46頁。石川県の項。(1)の記録の種名としてナベツルを加える。

(2)48頁。長崎県の項の1-2行目。壱岐、対馬地域に分けてまとめた。——1文重複印刷、削除する。